

指導内容系統整理表 <中学校>

R7.11.24 音楽科授業工房ワークショップ資料

【歌唱】			
校種	学年等	ア「思考力、判断力、表現力等」	イ「知識」
			曲想／音楽の構造・歌詞 音色、言葉／曲種
中学校	第1学年	ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫すること。	イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。 (ア) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わり (イ) 声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり
	第2・3学年	ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、 曲にふさわしい 歌唱表現を創意工夫すること。	イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。 (ア) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び 曲の背景 との関わり (イ) 声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり

ウ「技能」	
発声、身体の使用方	他者との調和
ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。	
(ア) 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使用方などの技能	(イ) 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能
ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。	
(ア) 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使用方などの技能	(イ) 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能

【器楽】			
校種	学年等	ア「思考力、判断力、表現力等」	イ「知識」
			曲想／音楽の構造 楽器の音色／奏法
中学校	第1学年	ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫すること。	イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。 (ア) 曲想と音楽の構造との関わり (イ) 楽器の音色や響きと奏法との関わり
	第2・3学年	ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、 曲にふさわしい 器楽表現を創意工夫すること。	イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。 (ア) 曲想と音楽の構造や 曲の背景 との関わり (イ) 楽器の音色や響きと奏法との関わり

ウ「技能」	
奏法、身体の使用方	他者との調和
ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。	
(ア) 創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使用方などの技能	(イ) 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能
ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。	
(ア) 創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使用方などの技能	(イ) 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能

【創作】			
校種	学年等	ア「思考力、判断力、表現力等」	イ「知識」
			水平・垂直 構成
中学校	第1学年	ア 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、創作表現を創意工夫すること。	イ 次の(ア)及び(イ)について、表したいイメージと関わらせて理解すること。 (ア) 音のつながり方の特徴 (イ) 音楽材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴
	第2・3学年	ア 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、 まとまりのある 創作表現を創意工夫すること。	イ 次の(ア)及び(イ)について、表したいイメージと関わらせて理解すること。 (ア) 音階や言葉などの特徴 及び音のつながり方の特徴 (イ) 音楽材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴

ウ「技能」	
(ア) 各学年の「A表現」の③の 創作の指導 に当たっては、 即興的に音を出しながら音のつながり方を試すなど、音を音楽へと構成していく体験を重視すること。その際、理論に偏らないようにするとともに、必要に応じて作品を記録する方法を工夫させること。(内容の取扱いから)	ウ 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けること。 ウ 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けること。

【鑑賞】			
校種	学年等	ア「思考力、判断力、表現力等」	イ「知識」
			評価とその根拠 音楽の意味や役割 共通性や固有性 曲想／音楽の構造 背景、他の芸術との関わり 伝統音楽・諸民族の音楽
中学校	第1学年	ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)から(ウ)までについて 自分なりに 考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと。 (ア) 曲や演奏に対する評価とその根拠 (イ) 生活や社会における音楽の意味や役割 (ウ) 音楽表現の共通性や固有性	イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。 (ア) 曲想と音楽の構造との関わり (イ) 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わり (ウ) 我が国や郷土の伝統音楽及び アジア地域の諸民族 の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性
	第2・3学年	ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)から(ウ)までについて考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと。 (ア) 曲や演奏に対する評価とその根拠 (イ) 生活や社会における音楽の意味や役割 (ウ) 音楽表現の共通性や固有性	イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。 (ア) 曲想と音楽の構造との関わり (イ) 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わり (ウ) 我が国や郷土の伝統音楽及び 諸外国の様々な 音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性

<共通事項>			
校種	学年等	ア「思考力、判断力、表現力等」	イ「知識」
			「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
中学校	全学年	ア 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したものと感受したこととの関わりについて考えること。	イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解すること。